

第3回 技術開発の方向性に即した自動運転の実現に向けた調査検討委員会 議事概要

1. 開催日時等

- ・開催日時：平成31年3月4日（月）14：00～16：00
- ・開催場所：経済産業省別館312号会議室
- ・出席委員等
中央大学大学院法務研究科教授 藤原静雄（委員長）
東京工業大学環境・社会理工学院土木・環境工学系教授 朝倉康夫
ITS JAPAN専務理事 天野肇
早稲田大学名誉教授 石田敏郎
筑波大学副学長・理事 稲垣敏之
法政大学大学院法務研究科教授 今井猛嘉
自動車ジャーナリスト 岩貞るみこ
公益社団法人被害者支援都民センター理事 大久保恵美子【欠席】
慶應義塾大学大学院法務研究科教授 鹿野菜穂子
首都大学東京法科大学院教授 木村光江
東京大学生産技術研究所教授 須田義大
一般社団法人日本自動車工業会自動運転検討会主査 横山利夫【欠席】
警察庁交通局交通企画課長
警察庁長官官房参事官（高度道路交通政策担当）
警察庁交通局交通企画課自動運転企画室長
警察庁交通局交通企画課理事官
警察庁交通局交通企画課課長補佐
警察庁交通局交通指導課課長補佐
警察庁交通局交通規制課課長補佐
警察庁交通局運転免許課課長補佐
- ・オブザーバー
内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室参事官
内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付参事官（社会システム基盤）付
企画官【代理出席】
総務省総合通信基盤局電波部移動通信課新世代移動通信システム推進室長【欠席】
法務省刑事局参事官
外務省国際協力局専門機関室長
経済産業省製造産業局自動車課ITS・自動走行推進室長
国土交通省道路局道路交通管理課高度道路交通システム（ITS）推進室長
国土交通省自動車局技術政策課自動運転戦略官

2. 議事進行

2.1. 開会

※事務局より開会を宣言。

2.2. 討議

(1) 新技術・新サービスに関する検討ワーキンググループからの報告について

新技術・新サービスに関する検討ワーキンググループにおける検討結果を本委員会に報告し、技術開発の方向性に即した自動運転の実現に向けた調査研究報告書（新技術・新サービス関係）案が承認された。各委員からの主な意見等は、次のとおり。

【電子牽引によるトラック隊列走行について】

- ・ 隊列走行の実現には、隊列の周囲を走行する道路利用者等から理解と協力を得て、隊列走行を受け入れてもらうための努力が必要であろう。
- ・ 電子牽引に係る技術的要件の検討状況や技術開発の進展状況等を踏まえながら、安全の確保を第一としつつ、慎重に交通ルールに関する議論を進めていく必要がある。

【限定地域での無人自動運転移動サービスについて】

- ・ 限定地域での無人自動運転移動サービスの実現への社会の期待は大きいですが、地域の事情やニーズは様々であり、一律に議論することは難しい。今後も、それぞれの地域のニーズに応えられるよう柔軟に検討を進めることが重要であろう。
- ・ 必ずしも全ての地域で最先端技術の使用が必要とされているとは限らず、枯れた技術や地域の理解の下で解決される課題もあろう。それぞれの地域における課題を集約し、サービス像を分類して検討を進めることが重要ではないか。
- ・ 近年、犯罪は凶暴化していると感じている。無人自動運転移動サービスにおいては、利用者、特に若い女性にとって安全で、安心できる乗り物であるためにどうすべきかという視点を持つことが重要であろう。

(2) 自動運転の実現に向けたその他の課題等について

各委員からの主な意見等は、次のとおり。

- ・ 自動運転に係る技術開発は日進月歩である。制度整備の検討に際しては、技術開発の進展状況にできるだけ歩調を合わせることが重要であるが、国民の安全・安心を第一として、官民で連携して取組を進めるべきであろう。
- ・ 自動運転の普及は、人と車との関係性に大きな影響を与えるであろう。隊列走行や移動サービスをはじめ、自動運転の形態に応じて、発生し得る事象や注意事項について、安全性を確保する観点から検討を進めることが重要であろう。
- ・ 実用化に向けた課題を整理し、実験を通じて何を明らかにしなければならないのかを明確にした上で、実証実験を実施するべきであろう。

2.3. 閉会

(以上)